

- ・今、私は難聴者だけの手話教室へ通って、月2回4時間の手話を学んでいます。手話通訳を養成する講座はたくさんありますが、難聴者の場合通訳きこえない、手話わからないで、とうていついていくことはできません。難聴者の講座では、健聴者の先生がループをつかって、ゆっくり、本当にていねいに教えてくださるので、助かります。手話が上達したら、何かに生かせる場所をみつめていきたいと思っています。(聴覚障害、60歳)
- ・耳が不自由なため学習にバリアがつきまとう。本やテキストを読む学習がメインになり、「聞く」ことが必要な学習からは、必然的に縁遠くならざるを得ない。学ぶにも視覚による情報保障(文字による通訳)が必要。ヒアリングができないのが学ぶ上でのネックになっている。(聴覚障害、61歳)
- ・聴障者は社会生活をする上でさまざまなバリアに直面する。教育面ではコミュニケーション上、つねに通訳がほしい。20才からの中途難聴者であるが、教育的配慮として精神面のケアが欲しいと思った。立ち直るまでに20年も費してしまった。おかしなことである。(聴覚障害、61歳)
- ・ききなれない言葉がとびまわり、追いつくに必死です。昔のろう学校は手まね禁止、口話中心でした。技術優先勉強は二の次、そのため、ろくに文章を書けない者が多ぜいいました。だから読み書きに苦勞している60代以上が、ほとんどです。(聴覚障害、68歳)
- ・NHK放送大学(テレビ)に字幕をつけて下さい。(聴覚障害、69歳)
- ・停年後NPO法人が関わりを持つ事によりパソコン技術の習得が必要不可欠になりました。身近な所でPC教室など開催されておりますが、これは健聴者を対象とした学習会の場、その為耳が不自由な者には近ずき難い状態です。国・県・市町村では、障害者福祉計画の策定を急いでいるがその中でIT技術により情報保障(コミュニケーション保障)を謳っている以上、掛け声のみでなく実践を早めて頂きたい。つまり聴覚障害者用のパソコン学習会を継続的に開催していただける事を切に望んでおります。(聴覚障害、71歳)
- ・国家資格を取りたいが体の障害があるためとりたがとれない。それと車のめんきょしょ経済的余裕がないのでとれない。(内部障害、23歳)
- ・パソコンのより高度利用化、を希望します。(内部障害、70歳)
- ・私は、ペースメーカー埋込術を平成2年、58才で手術を受け、突然、障害者になり、内部障害者福祉会へ入会し、約20年、障害者相談員をしています。その間、いろいろ制度が変りました。今、障害者自立支援法が施行されています。この4月に制度の見直しがあるという情報が入っています。障害者が、地域で生活し良い制度にして下さい。(内部障害、76歳)
- ・黒板に緑のチョークで書かれ見にくかった。いじめにあった。(難病、23歳)
- ・英会話をやったがつぶれて2回くらいしか通えなかった。お金も戻ってこなかった。通う場所を見つける(トイレや交通の便)大変でやっと見つけたところだけにショック。(難病、30歳)
- ・障害のある人とない人が共に学べる環境にしてほしい。設備面や学習能力、スピードにかかわらず十分な支援の受けられる仕組みにしてほしい。(学校内の専ぞく介助者の導入や階段昇降機の普及、ピアカウンセラーの導入など)(難病、31歳)
- ・障害者本人は最重複重度の障害があり、記述することが出来ませんが代わって母親が記入致します。過去養護学校で高等部を卒業し即無認可作業所で仲間と一緒に成長(精神的?)し40才になり笑ったり、たのしんだりしています。同じ仲間と日々すごせることが大切なりハ

ビリだと思っているので今後もいろいろな仲間と一緒に生活出来ることを希望していますが、区分を分けられ、いろいろな区分の人達と互いがさ、えあってという所がなくなって行くように思います（難病、40歳）

- ・障害を持っていたとしても、全ての面において劣っているとは限らないと思います。実際、天才と呼ばれた多くの科学者や発明者の中にも、何らかの発達障害を持っていたと考えられるケースが数多くあり、私たちはその恩恵によって、現在の豊かな暮らしを送れるといっても過言ではないでしょう。ですから、障害を持った方たち、特に子供のような早期の段階で、優れている能力を見つけ出すことが重要であり、障害者という狭い枠組みに固定されることのない教育が大切ではないでしょうか。障害者への支援のあり方を見直すべく、保護一辺倒から多少の厳しさを含んだ学習へと移行しなければならないと思います。その為にも、子供達の能力を見る眼を持った、知識と熱意のある教育者を増やすべきだと感じております。僕も大学に向けて勉強しておりますが、障害を持った方たちが自分の障害に悲嘆することもなく、人類のため、世界のために自らの能力を存分に発揮できる世の中が理想だと考えています。（発達障害、16歳）
 - ・スポーツ教室や文化教室など地域の障害者センターでよく参加している。指導員さんかヘルパーさんなどと楽しく色々な人々と知りあったりできて本当に助かっている。少し心配なのは、1人で参加できる軽度の障害者の人は気軽にどんどん参加できるが、介助の必要は重度障害者は、1度参加してもなかなか続かない事です。重度の人向けののんびり教室などの企画を地域に求めて行きたいと思います（発達障害、19歳）
 - ・わかりやすく教えて欲しい。手伝ってください（発達障害、19歳）
 - ・保護者の立場での記入ですが、本人は自閉症の障害特性のあるため、限られた環境の中での学習になりますので、今利用しているものに対しては困ってはいません（と言うより、困った時はやめざるを得ません。困らないところに行っています）障害特性を理解して、受け入れてくれる場が多くなれば、選択もできるでしょうが、今は受け入れてくれるところに行くのみです。（発達障害、19歳）
 - ・いろんな事を学びたい。（発達障害、21歳）
 - ・なかなか就労に向けての話が展開しないこと。スキルアップが思ったよりできていない（発達障害、21歳）
 - ・中学・高校で職場体験などの活動を増してほしい。（発達障害、21歳）
- ☆息子は発達障害の診断を受けていますが、告知に失敗し十分に受容できていませんので、障害者対象であることは伏せ、母親が口頭で聞きとり記入しました。（発達障害、22歳）
- ・いろいろな支援を必要としている重度の障害者は、なぜ高等部で卒業なののでしょうか？高等部卒業後の4年間は、自立にむけてのスキル（社会へ飛び立つための訓練の場）を身につける良い期間だと思う。多感な、20才前後の年ごろに、健常の同じ年ごろの方々と共に過ごすことは欠くことの出来ない大事な事に思います。自立、社会参加を目の前に障害があってもその人らしい社会参加のスキル、または、その人にとって社会参加とは、何かを見つけ出す期間として、必要である高等部の後の発達障害者を受け入れる大学がほしいです。（発達障害、22歳）
 - ・私は、ごく軽度の発達障害で、小中高は普通学級、その後大学も4年間終わりました。4月からは一般企業にて働きますが、与えられた役割を上手く最後までこなせるかどうか、また仕

事の段取りの組み方や言葉遣い、重要なことをいくらでも記憶できるかどうかが不安です。軽度発達障害者親の会に幼い頃から所属していたので、月2回程度スポーツ教室や学習教室に通っていた事が私にとって友達作りではプラスになりました。(発達障害、22歳)

- ・ 大学は入学できたが、大学生活をおくるには、とても、つらく、3年在籍したが、通えず、中退した。苦しい過去として、なかなか、その思いは、消えない。(発達障害、22歳)
- ・ 早く就職して自立したい。(発達障害、23歳)
- ・ いじめられて勉強がまともにできなかった。先生までもいじめてきた。苦しい生活だった。人間なのに教育をうける権利あるのにそれができなかった。くやしい(発達障害、24歳)
- ・ これからも絵の勉強はつづけていきたいが、働くことが一番で、勉強まで手が出ない、でも絵は自分でもがんばっていきたい(発達障害、26歳)
- ・ 学校卒業以降が長い。先生方も卒業後のことは知らなさすぎる事が多い。主催する団体と連らくをとりあい学校という場をテキョウできる活動をもっととり入れてほしいです(発達障害、28歳)
- ・ 高等養護学校を卒業して10年以上たつが、勉強という機会はない、そのために、いまでも毎日日記をかかせている。重度自閉症のために、カルチャーセンター等で楽しく、行事等に参加させたいが、利用は不可能である。施設の中では、本人の要望はかなえられない(発達障害、30歳)
- ・ 特になし。困難なことがあったときには、友人やスタッフに相談することを憶えた。(発達障害、32歳)
- ・ 勉強は皆と一緒にしていけなかった・もっと細やかなわかりやすいテキスト、先生の指導がほしかった・テストに関しても何が書いてあるのか理解出来なかったり時間が足りない事もあった・どんどん進んでいく授業は学校生活をつまらなくしていた・個別でつまづいている所からスタートして教えてもらいたかった(転校が多かったので県によって全く授業がついていけなかった)(発達障害、40歳)
- ・ 関心がある、または、必要な講座(専門的)の開催場所や時間帯が、近くて日中にあり、費用面でも負担の軽減があるとありがたいです。(発達障害、48歳)
- ・ 入学に際して合理的な配慮をしてほしい。・教科書の違う形態での利用を広くいきわたらせてほしい・評価方法を変えてほしい・中学まではなにがなんでも卒業させてしまうことをやめてほしい(発達障害、56歳)
- ・ 小学部から高等部まで盲学校で学びました。視力に対しての配慮はありましたが、聴覚に対しての配慮はありませんでした。授業についていくことがむずかしかったです。(盲ろう、19歳)
- ・ 障害とくに情報入力障害では一つのことをするのに何倍もの時間がかかる、学校教育の時間数では全然足りていない。高校3年間にこだわらず、せめて健常の人の2倍の時間をかけられるような、教育制度があったら、もう少し色々学べたかも知れない。学校を卒業してしまうと、重度重複の子にとっては学ぶ場はないのが現状であり、現在は作業所内で工夫し色々学びの場も設けていただいている。(盲ろう、20歳)
- ・ (保護者が代わりに記入) 盲ろうに関する資料を参考にしたり、集いの時に意見をきいたりして、学習の方法を模索しているが困った時に、どこか相談する場所が欲しい。学校での教育で思うことは、子供に対する理解が、どれだけあったのか? 盲でもない、ろうでもない「盲

ろう」という障害をどれだけ理解し、何が必要なのか考えてくれていたか疑問に感じている。
(盲ろう、31歳)

- ・盲ろうという障害に、理解、配慮がなく、辛い思いをした。出来ないからほっとくのではなく、すこしでも出来る方法を考えてほしかった。個々の障害に合った教育をしてほしい。とても熱心な、良い先生もおられたが、少なく、そうでない先生の方が多かった。(盲ろう、31歳)

【Ⅷ問2 どのような場所で仕事や活動をしているのか】

- ・病院の関連施設《生活訓練、デイケア》(その他、49歳)
- ・NPO 団体 (肢体不自由、23歳)
- ・就労継続支援B型 (肢体不自由、24歳)
- ・今、仕事をさがしている。(肢体不自由、30歳)
- ・肢体不自由団体の事務 (肢体不自由、31歳)
- ・任意団体 (障害者) (肢体不自由、33歳)
- ・バリアフリー調査活動 (肢体不自由、34歳)
- ・生活介護 (肢体不自由、34歳)
- ・精神対話士の派遣登録 (肢体不自由、39歳)
- ・障害者団体 (肢体不自由、48歳)
- ・障害者団体職員 (肢体不自由、53歳)
- ・専門学校非常勤講師、講演等 (肢体不自由、53歳)
- ・社会福祉協議会 (肢体不自由、56歳)
- ・市役所 (肢体不自由、63歳)
- ・障害者だけの集まり・市より委認された相談員 (肢体不自由、68歳)
- ・障害者団体 (肢体不自由、69歳)
- ・市役所関係 (肢体不自由、75歳)
- ・障害者団体 (肢体不自由、77歳)
- ・財団法人 (視覚障害、31歳)
- ・教員 (視覚障害、38歳)
- ・学校 (視覚障害、40歳)
- ・障害者団体 (視覚障害、40歳)
- ・学校 (視覚障害、50歳)
- ・学校 (視覚障害、53歳)
- ・福祉団体 (視覚障害、62歳)
- ・治療院 (自営) (視覚障害、63歳)
- ・社団法人でほとんど無給の理事として (視覚障害、73歳)
- ・点字図書の校正 (視覚障害、73歳)
- ・社会福祉法人 (視覚障害、75歳)
- ・〇〇作業所に行く (重複障害、17歳)
- ・個人的に中高大に自分の経験してきた訪 (講演活動) 障害者団体 (重複障害、20歳)
- ・難聴協会活動 (重複障害、34歳)

- ・じゅさんしせつ（重複障害、37歳）
- ・通所更生施設（重複障害、39歳）
- ・回復者クラブ（重複障害、68歳）
- ・県や市・障害者団体（重複障害、72歳）
- ・病院デイケア（精神障害、28歳）
- ・出張している。（精神障害、30歳）
- ・障害者団体、セルフヘルプグループ、市民サークル活動など（精神障害、33歳）
- ・地活活動支援センターの非常勤職員（精神障害、49歳）
- ・〇〇会（精神障害、51歳）
- ・地域生活支援センター所属ピア・サポート&回復者クラブ（精神障害、51歳）
- ・入院中（精神障害、56歳）
- ・〇〇センター、地域生活支援センター（〇〇）（精神障害、59歳）
- ・本人の活動（知的障害、25歳）
- ・授産施設（知的障害、28歳）
- ・〇〇生協（知的障害、32歳）
- ・B型（知的障害、36歳）
- ・福祉会館の一室（皆が集まるところ・特に借用ではない）（聴覚障害、49歳）
- ・要約筆記サークル（聴覚障害、49歳）
- ・土・日は難聴者協会で活動（聴覚障害、52歳）
- ・自営業手伝（聴覚障害、60歳）
- ・社会福祉協議会内のボランティア活動（聴覚障害、61歳）
- ・団体職員（聴覚障害、62歳）
- ・障害者団体の活動（内部障害、76歳）
- ・社会福祉法人（難病、30歳）
- ・地域のサッカークラブ（発達障害、31歳）

【Ⅷ問3 最後に卒業した学校】

- ・訪問教育18才位（肢体不自由、50歳）
- ・就学免除（肢体不自由、51歳）
- ・尋常高等小学校（肢体不自由、77歳）
- ・ナシ（肢体不自由、82歳）
- ・教員免許養成施設（視覚障害、66歳）
- ・電子工学系の学校（重複障害、46歳）
- ・小学校3年生まで（重複障害、60歳）
- ・大学2年中退（精神障害、41歳）
- ・船員学校（精神障害、43歳）
- ・職業訓練校（知的障害、24歳）
- ・職業訓練校（中学卒業後）（知的障害、40歳）
- ・〇〇ろう学校高等部卒（聴覚障害、62歳）
- ・〇〇県立ろう学校（聴覚障害、68歳）

- ・高等学校中退（内部障害、23歳）

【Ⅶ問5 現在どのような場所や形態で学習活動をしているか】

- ・病院関連の施設（その他、49歳）
- ・大学の講座の聴講（肢体不自由、20歳）
- ・独学（肢体不自由、21歳）
- ・研修センター（パソコン）（肢体不自由、22歳）
- ・英会話学校〇〇（肢体不自由、26歳）
- ・障がい者サッカーチームを作って活動している（肢体不自由、30歳）
- ・本人の会（肢体不自由、34歳）
- ・施設、デイサービス中に手芸等（肢体不自由、40歳）
- ・〇〇県せきずい損傷者協会（肢体不自由、49歳）
- ・市民活動支援センター（肢体不自由、63歳）
- ・民間団体（肢体不自由、65歳）
- ・ナシ（肢体不自由、82歳）
- ・個人の家での教室（視覚障害、22歳）
- ・大学の通信教育（視覚障害、38歳）
- ・家庭教師による指導（視覚障害、69歳）
- ・自分より技術知識の上位者に随時教えを乞う（視覚障害、73歳）
- ・NPO 法人の絵画教室（重複障害、20歳）
- ・大学聴講生（重複障害、20歳）
- ・大学で科目等履修生として（重複障害、21歳）
- ・和たいこ（重複障害、21歳）
- ・個人に習っている（重複障害、25歳）
- ・地域の個人（重複障害、27歳）
- ・NPO 法人で仕事をしながら（重複障害、37歳）
- ・県いくせい会の、本人かつどう（重複障害、42歳）
- ・自宅での学習（重複障害、59歳）
- ・宗教団体（重複障害、68歳）
- ・カルチャースクール（精神障害、30歳）
- ・塾（ピアノ教室）（精神障害、31歳）
- ・市民サークル、民間主催の講座・教室や催し（精神障害、33歳）
- ・個人教室（精神障害、35歳）
- ・デイ・ケア（精神障害、37歳）
- ・自宅（精神障害、37歳）
- ・趣味で通った大学学校のOB会（精神障害、40歳）
- ・病院のデイケア通所（精神障害、41歳）
- ・SST など（精神障害、43歳）
- ・新聞などの情報で講演会に行く等（精神障害、49歳）
- ・短歌の会（精神障害、59歳）

- ・回復者クラブ（精神障害、61歳）
- ・就職活動（知的障害、19歳）
- ・NPO が主催するスポーツ教室（知的障害、23歳）
- ・病院（知的障害、24歳）
- ・本人の会（知的障害、25歳）
- ・オープンカレッジ（知的障害、28歳）
- ・研究所月1回、移動支援週4日（2.5時間）（知的障害、31歳）
- ・手をつなぐ育成会・本人の会（知的障害、36歳）
- ・本人活動（知的障害、60歳）
- ・自宅（聴覚障害、26歳）
- ・耳がきこえない親の子育てサークル運営（聴覚障害、32歳）
- ・同職組合で行う講座－歯科技工関係（聴覚障害、42歳）
- ・市民団体が主催する学習会（聴覚障害、49歳）
- ・独学（難病、30歳）
- ・自宅（発達障害、16歳）
- ・習い事、ピアノ（発達障害、19歳）
- ・障害者センターの講座（発達障害、19歳）
- ・個人でやっている塾に行ってる（発達障害、21歳）
- ・していない（発達障害、22歳）
- ・社会福祉団体主催する講座や催し（発達障害、28歳）
- ・個人指導（発達障害、36歳）
- ・資格取得のため（発達障害、56歳）

【Ⅶ問7 現在の学習活動の場所や形態をどのようにして知ったか】

- ・ヘルパーに教えてもらったから。（肢体不自由、30歳）
- ・知人に誘われた（肢体不自由、49歳）
- ・知人の紹介（肢体不自由、56歳）
- ・自分の障害に向くから。（肢体不自由、68歳）
- ・同じ障害者から情報を得た（視覚障害、50歳）
- ・マスコミ、インターネット、知人等との会話などを通して（視覚障害、73歳）
- ・過去に点字図書館に勤務していたから（視覚障害、73歳）
- ・親が行政に働きかけて作ってもらった。（重複障害、20歳）
- ・大学を受験するが不合格になる2度チャレンジ（重複障害、20歳）
- ・現在活動している作業所で知った。（重複障害、37歳）
- ・NPO 法人からの情報（重複障害、59歳）
- ・保健所（精神障害、36歳）
- ・自宅（精神障害、37歳）
- ・保健所からの情報（保健師）（精神障害、48歳）
- ・地域生活支援センター（精神障害、51歳）
- ・保健所（保健師）（精神障害、52歳）

- ・友人の紹介（精神障害、59歳）
- ・ハローワークにて（知的障害、19歳）
- ・近所に図書館がある。（知的障害、21歳）
- ・友達から聞いた（知的障害、28歳）
- ・フリースクールに通っている時にさがした（発達障害、21歳）
- ・主催している社会福祉団体からのお知らせで（発達障害、28歳）

【Ⅶ問9 現在行っている学習活動に満足している理由】

- ・学校生活が味わえるから（肢体不自由、20歳）
- ・将来的に海外留学を目指している（肢体不自由、26歳）
- ・在宅なので、社会の刺激が受けられるから（肢体不自由、30歳）
- ・本人の会（回復者クラブ）で研修活動を重複しているから（精神障害、51歳）
- ・自分にひつようなことだから（知的障害、19歳）
- ・自分で出かけて、好きな本などを見てこられる。（知的障害、21歳）
- ・情報得る方法の1つでもある（聴覚障害、61歳）

【Ⅶ問10 現在行っている学習活動に満足していない理由】

- ・もっと勉強したいが、自分自身の時間がないから（肢体不自由、54歳）
- ・習っても練習する時間がないから学習とは言えない（視覚障害、67歳）
- ・土、日、祝日の看護体制（病院）による規制があるから（重複障害、27歳）
- ・日ていがあわない。（重複障害、30歳）
- ・仕事との両立が大変、会員が高齢化（重複障害、34歳）
- ・定期的に活動できるものがない。単発なものが多い。（重複障害、35歳）
- ・頻度が多すぎて体力的に続けられない。内容に満足できる活動は遠方すぎて体力的に利用できないから（精神障害、33歳）
- ・どうやって読む本を搜したら良いかわからない（精神障害、50歳）
- ・親の主導で参加させている（知的障害、22歳）
- ・ろう協は支配欲が強すぎる（役員の圧力が強い…）ろう協食費は高い！！地域のろう協会はあまり社会を変える熱意がない（聴覚障害、32歳）
- ・もの足りない。レベルがひくい→ボラに教えているがボラも同障者の中にも（聴覚障害、51歳）
- ・情報保障が不完全（聴覚障害、61歳）
- ・時間がとれない（聴覚障害、69歳）
- ・情報保障（電動・光・電子誘導の不足）（聴覚障害、71歳）
- ・時間的余裕がなく深い学習ができない（発達障害、46歳）
- ・日数が少ない（43歳）

【Ⅶ問11 職場や作業所などでの活動以外で学習活動を行っていない理由】

- ・体力的な余裕がない（肢体不自由、22歳）
- ・呼吸器をつけていて外出できにくいから（肢体不自由、29歳）

- ・体力的に無理である（肢体不自由、32歳）
- ・寝たきりのため（肢体不自由、33歳）
- ・いろいろな活動で忙しいから（肢体不自由、34歳）
- ・生活援助（移動サポート等）の利用がしづらい（肢体不自由、39歳）
- ・重症心身障害者のため全面介助が必要なため（肢体不自由、46歳）
- ・デイサービス（肢体不自由、47歳）
- ・仕事を休まないで行ける所がない（肢体不自由、59歳）
- ・学習ではないが、レスパイトなどの余暇活動には参加している（視覚障害、29歳）
- ・マラソンのトレーニングの為。（視覚障害、31歳）
- ・リハビリや、劇を見たりしている。（重複障害、22歳）
- ・障害が重すぎる（重複障害、26歳）
- ・障害が重く学習活動（？）はできません。ただコミュニケーションの方法等教えていただきたい事は多く有ります。（重複障害、31歳）
- ・施設通所でせいっぱい（重複障害、32歳）
- ・障害が重度のため（重複障害、33歳）
- ・作業所以外生活に追われて、時間、気持の余裕がない（重複障害、61歳）
- ・先生の許可が出ないから（精神障害、27歳）
- ・精神的な余裕がないから（精神障害、29歳）
- ・わからない（精神障害、30歳）
- ・自分のことでせい一杯で、他のことを考える余裕がない（精神障害、39歳）
- ・パソコン等を職場で行っている。（精神障害、42歳）
- ・地域的に遠いし交通手段が無いから（精神障害、48歳）
- ・近くに講座があればいきたい。（精神障害、52歳）
- ・入院中（精神障害、56歳）
- ・発作があるので気をつけているので（精神障害、60歳）
- ・病気のため（精神障害、67歳）
- ・ゲームをやってます。（知的障害、24歳）
- ・重度の重複障害のため（知的障害、30歳）
- ・能力不足のため（知的障害、43歳）
- ・施設でそのとりくみがない（知的障害、48歳）
- ・学習ではないが手話講座活動は行っている。（聴覚障害、30歳）
- ・手話通訳 or 要約筆記がないから→特に公民館や大学の講座やカルチャースクール（聴覚障害、32歳）
- ・体が続かないから。（聴覚障害、49歳）
- ・文字通訳がないと話されていることが分からない（聴覚障害、55歳）
- ・高齢（聴覚障害、78歳）
- ・働・気力のおとろえ（内部障害、49歳）
- ・作業所が10-4時行くので残った時間は生活でいっぱいになる（難病、40歳）
- ・3月に大学を卒業したばかりで、4月からは就職が決まっている（発達障害、22歳）
- ・自分の好きな絵を書いたり、絵本を作ったりしているから（発達障害、26歳）

- ・ 1人では行かない。一緒に行ってくれる人が少ない。(盲ろう、31歳)

【Ⅶ問13 機会があれば大学等の教育機関に入学したい理由】

- ・ 博士課程を目指しているから (肢体不自由、34歳)
- ・ 自分の興味を持っていることを研究したい。(肢体不自由、55歳)
- ・ 再度、大学院で研究したいと思うかもしれないから。(視覚障害、31歳)
- ・ 資格が欲しいから (保育士) (精神障害、29歳)
- ・ 医学部中退したのでやり直したい。(精神障害、38歳)
- ・ 卒業したから (精神障害、40歳)
- ・ 中退したのもう一度入学してやりなおしたい (精神障害、50歳)
- ・ 小免をとるための科目履修生として、通信教育・スクーリングを受けたい (聴覚障害、26歳)
- ・ 情報保障が前より進んでるから (聴覚障害、32歳)
- ・ 大学まで配慮のない中で過ごした。聴覚障害を持つ者にとって学校生活の場では、情報保障が必要です。今、やっと要約筆記が出てきたので再び、同じことを学びたい。(聴覚障害、49歳)
- ・ 自分の学生時代は少々の障害を目つぼにとっていじめる教官が多かったし、障害に対する対応は1つもなかったのが現在どのように改善されたか体験して学習を楽しみたい。(聴覚障害、51歳)
- ・ 大学時代、聴覚障害に対する配慮がなかったので通訳の保障を得られるなら、再度学び直してみたい。(聴覚障害、55歳)
- ・ 人生の師が創立した学校で、創立者の心にふれたい。師匠の期待にこたえられる人間に成長したい。(難病、39歳)
- ・ すでに卒業している (発達障害、56歳)